

平成27年9月4日

## 平成27年度文部科学省委託事業の採択について（報告）

本年度、文部科学省が創設した、全国の学校統合を契機とした魅力ある学校づくりに対する国の委託研究事業、「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」について、「岡谷小学校統合を契機とした魅力と活力ある学校づくり」の事業提案が採択となりました。（制度概要は別紙のとおり）

本事業は、統合を契機にした魅力ある学校づくりの取り組みによって蓄積される様々な効果や成果などを、国の積極的な支援のもと、他の自治体の今後の取り組みに活かすため、国が委託する研究事業であり、公募による提案事業を国の審査委員会が選考した結果、全国で5団体が採択となったものです。

今後、国の委託事業として契約を交わした上で、全国のモデルとなるように、統合を契機とした魅力ある学校づくりを進めてまいります。

### <モデル事業の概要>

○事業名 「岡谷小学校統合を契機とした魅力と活力ある学校づくり」  
～地域資源を活用した「岡谷『ひと・もの・こと』教育の構築」～

【テーマ】 統合を契機とした岡谷版コミュニティスクール（信州型）の導入

【テーマ】 統合校の特色を活かしつつ公開授業を行う新たな研究推進校の育成

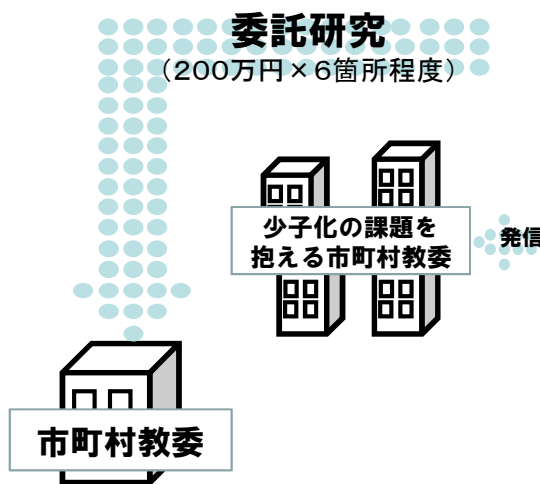
【テーマ】 製糸、シルク、産業などの地域資源を活用した学習カリキュラム  
（岡谷スタンダードカリキュラム）の構築

○採択予定額 （調整中）

○事業期間 3年間（年度毎の契約は、審査の上、毎年度決定されます。）

# 少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業 (平成27年度予算額 27百万円(新規))

国の積極的な支援のもと、統合による魅力ある学校作りや、統合困難な地域における教育環境の充実の取組モデルを創出  
 ⇒生み出された好事例を文部科学省が積極的に分析・発信し、少子化対応を加速化

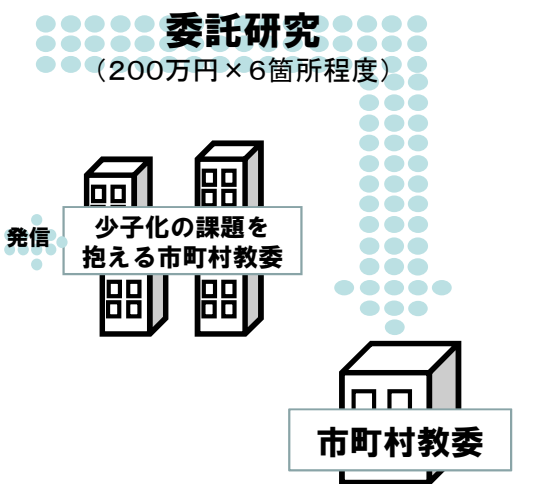


**文部科学省**

実効的な成果が挙がるよう、**事業の計画段階から実施に至るまで**、有識者の助力を得つつ**丁寧に市町村教委・学校を支援**

有識者の力を借りつつ、委託先の**教育上の効果等の成果の分析・取りまとめ**

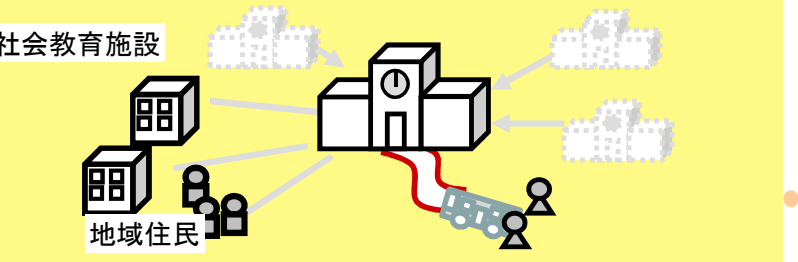
**創出した事例を他の自治体に積極的に発信**



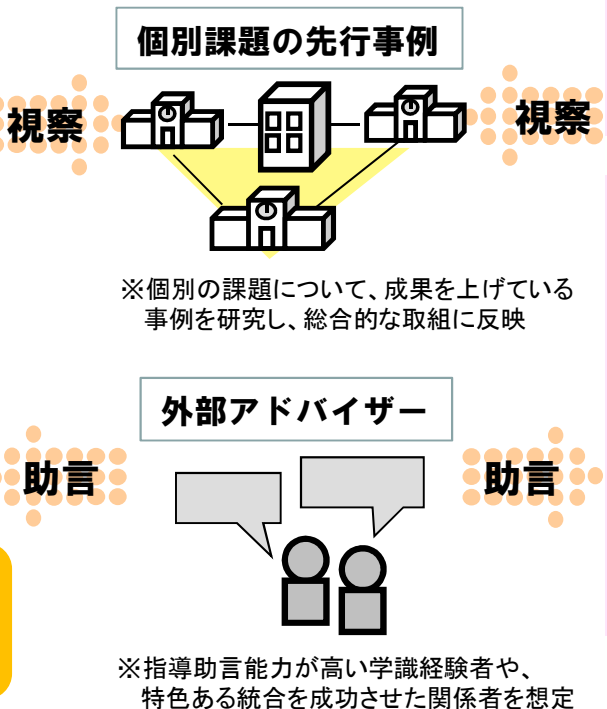
## ①魅力的な学校統廃合事例

学校統廃合を通じて充実した教育環境の創出を目指す地域において、デメリットを抑えた魅力的な学校統廃合の実現。

**【魅力ある学校づくりの方策例】**  
 統合対象地域の多様な特色を学び合うカリキュラム開発、コミュニティスクールの効果的な導入、社会教育とシームレスにつながった学校教育活動・施設整備の研究など

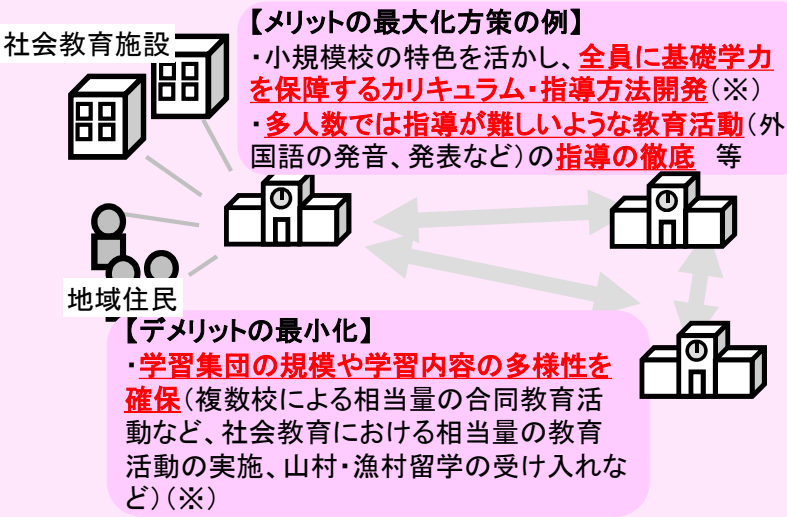


**【統合により生じる課題への対応方策例】**  
 適切な**通学手段の確保・運用**(スクールバス乗車時間の有効活用、長時間乗車後の脳の活性化方策、スクールバス通学に伴う子供の体力低下への対応)など



## ②小規模校を存続させる場合の教育環境の充実に事例

小規模校を存続させる場合や、休校している学校を再開する場合等に、小規模校のメリットを最大化し、デメリットを最小化する方策を徹底追求。



※ICTを活用した教育環境の充実については、主として人口減少社会の学校教育におけるICT活用の実証研究事業で実施。

## 「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」 企画提案の概要

【調査研究Ⅰ】 魅力ある学校統合事例の創出

【調査研究タイトル】

岡谷小学校統合を契機とした魅力と活力ある学校づくり  
～地域資源を活用した「岡谷『ひと・もの・こと』教育」の構築～

### 【企画提案の概要】

岡谷市が取り組みを進めている学校統合は、全国的にも事例の少ない学校敷地の安全性の問題を主因とするもので、統合によって、本年度で廃校となる岡谷小学校の児童や保護者、地域住民の理解を得るまでには、多くの労力と時間を要しましたが、児童の安全確保を最優先に考え、平成28年4月に統合を実行するものです。

特に岡谷小学校の児童や保護者は、愛着ある学校が無くなることを冷静に受け止めながら、統合を前向きに捉えており、これまでの経緯を大切にしながら、環境が変わる3校全ての子どもたちが楽しく、期待を持って、新しい学校生活を迎えられるようにすることが本年度の最大のテーマであります。

少子化、人口減少社会を見据えた時に、今後、学校の統廃合に直面する市町村が多くなることが予想される中で、当市における学校統合の経緯や統合後の学校づくりによって蓄積される経験などは、今後の参考になると考えております。

企画提案書では、「岡谷小学校の統合を契機とした魅力と活力ある学校づくり」を本事業による調査研究のタイトルとしております。この内容は、国の委託事業の採用如何に関わらず当市がめざしている目標であり、統合を契機に魅力と活力ある学校づくりを市内全小中学校に波及させていく狙いを持っております。

主な研究テーマは、統合による学校づくりを進める中で、児童を常に中心に置きながら、地域との連携による「岡谷版コミュニティスクール」の創造、研究校としての岡谷小学校の伝統の継承と再構築、地域資源を活用した新しい教育スタイル「岡谷『ひと・もの・こと』教育」の構築としております。これらを互いに関連付けながら、全体の取り組みを通じて、魅力と活力ある学校づくりを進めたいと考えております。

更に、地域に根ざした岡谷ならではの教育を実践することで、ふるさと「岡谷」のよさを感じ、ふるさとを心から愛することのできる郷土愛豊かな子どもの育成につなげたいと考えており、一連の取り組みを通じて当市の教育力の底上げを図っていくものであります。



## 魅力と活力ある新たな学校

**ア. 統合後の学校が新たな学区の地域コミュニティの核として高い教育機能を発揮**  
(課題)

- ・統合から始まる岡谷版コミュニティスクール(信州型)の創造、全市への展開
- ・地域とのつながりによるチーム教育、学習支援の推進、地域活力による地域創生

(目標)

- ・平成29年度までに市内全小中学校にて岡谷版コミュニティスクール(信州型)を展開
- ・地域の学習ボランティアによる学習支援体制の構築

**イ. 統合を契機とした学校運営システムの抜本的改革**  
(課題)

- ・「岡谷小」の研究実践の継承と特別支援拠点校の「田中小」、自然科学の総合的学習に力のある「神明小」が融合した新たな学校づくり
- ・統合をきっかけに学校力を高め、質の高い教育を実践する学校運営プログラムの構築

(目標)

- ・統合校の伝統と良さを引き継ぐ新たな研究推進校の育成
- ・教職員の同僚性を高める職場環境づくり、研究力の蓄積

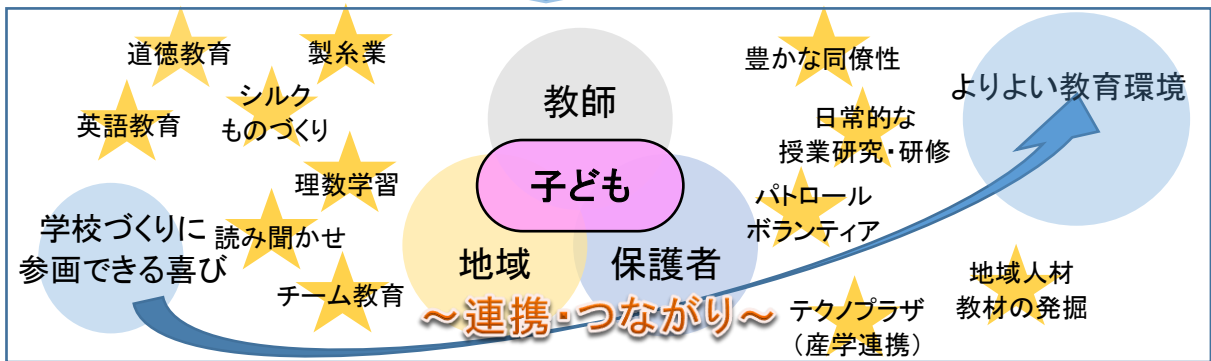
**エ. 統合を契機とした魅力的な学校づくり**  
(課題)

- ・シルク、製糸、産業をベースにした岡谷ならではの岡谷スタンダードカリキュラムの構築
- ・岡谷蚕糸博物館との連携等、郷土の文化・産業資源を活用した岡谷「ひと、もの、こと」教育の推進

(目標)

- ・ものづくり学習による岡谷スタンダードカリキュラムの構築、実践
- ・ものづくり学習を基礎にした理数教育への誘いと探究心や知的好奇心の醸成
- ・統合による人間関係の広がりをサポートするためのSSTの実践
- ・「ひと・もの・こと」にかかわる力の育成と、ふるさと岡谷を愛する心の醸成

### 伝統校の教育力の継承と再生      地域資源を活用した新しい教育スタイルの形成



### 岡谷スタンダードカリキュラム      市内全小中校への広がり      岡谷版コミュニティスクール

ふるさと「岡谷」のよさを感じ、ふるさと「岡谷」を愛する子どもの育成

物認可

少子化に対応した学校探る 文科省事業

来年4月に岡谷市の岡谷小学校を近隣2校に統合する計画が、少子化や人口減少社会に対応した学校の在り方を探る文科省のモデル事業に採択されたことが4日、分かった。統合を前に時間をかけて児童同士の交流を深める試みなどが「参考になる点が多い」(文科省教育制度改革室)とされた。市教委は、同省からの支援を受けて統合校の魅力づくりなどを進める。

県内では小規模校存続のモデル事業として、伊那市の東部中学校(大規模校)と長谷中(小規模校)の情報通信技術を活用した連携も採択された。同省は本年度、岡谷市、伊那市ともに約200万円を委託費として支給する。支援の期間は岡谷市は本年度を含め3年間、伊那市は2年間の予定だ。

岡谷小は2013年3月、地盤が軟弱で学校敷地に適さないこと

岡谷小統合前交流 国モデルに



が判明。市教委は昨夏、児童の通学区域を分ける形で近隣の田中、神明小への統合を決めた。急ぎよ統合を迫られた事情を踏まえ、昨年9月には校長やPTA役員らの学校統合推進委員会を設置。3校の児童による台同のキャンプや各校の校内巡り、児童会が各校を紹介する「交流新聞」の発

伊那東部中と長谷中の連携も採択

行など多様な手法で交流や思い出づくりに取り組み、通学路の安全対策や学校行事の検討なども進めてきた。市教委は同省からの委託費を統合推進委の活動に充てるほか、地域住民が統合校の運営に関わる「岡谷版「コミュニティスクール」」の検討に役立てる予定。市教委は「全国に発信できる学校づくりに取り組みたい」とする。文科省によると、全国では学校統合計画がある5市町村と、小規模校の存続を図る7市町村の事例をモデル事業に採択。各地域の取り組みを分析し、全国に先行事例として伝えるという。



県内

岡谷市の岡谷小、田中小、神明小の5年生が来  
年4月の統合に向けて交流を深めるために開  
かれた合同キャンプ7月30日、茅野市



発行所  
〒394-0028 岡谷市本町3  
岡谷市民新聞社  
編集・発行人 薩摩 建  
電話 記事23・4449  
広告22・8000  
購読22・8001  
事業22・8002  
総務23・4441  
FAX 記事22・4444  
FAX 広告21・1515  
インターネットページ  
www.shimin.co.jp  
E-mail(記事)  
mail@shimin.co.jp  
E-mail(広告)  
koukoku@shimin.co.jp

©岡谷市民新聞社 2015年  
定価1カ月1,740円  
1部売り60円 (税込み)

市民新聞の購読申込みは本紙営業局 ☎22・8001へ

本紙をお届けする販売店  
浜新聞店 ☎22・2393  
読売センター岡谷 ☎22・9680  
産経新聞岡谷 ☎22・3881  
中日新聞岡谷店 ☎22・4129  
毎日新聞岡谷店 ☎78・7870  
唐沢新聞店 ☎23・0896

□長地地区□  
渡邊新聞店 ☎27・8114  
毎ふれあいネット通勤 ☎27・7602  
毎日新聞岡谷店 ☎78・7870  
矢川新聞店 ☎27・3883  
中日新聞専売所 ☎27・7166  
コンビニもご利用ください

### 岡谷小統合

# 全国モデルへ研究対象に

## 市の取り組み国事業に採択

来年4月に迫った岡谷小学校の統合で、統合を契機に魅力ある学校づくりを進める岡谷市の取り組みが、文部科学省の「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」に採択された。通学路の安全対策や児童の交流など、市や統合推進委員会、市教委、学校が進めてきた各事業が、全国のモデル創出に向けた研究対象として国に認められた形だ。

「活力ある学校教育推進事業」は、学校統合や小規模校の存続問題を抱える市町村の支援策として、国が新

規に打ち出した事業。版コミュニティスクールの導入や、地域資源を活用した独自の学習カリキュラムの構築など、統合を学校教育環

境充実の機会と捉えたテーマが評価された。今秋中に委託契約を結び、本年度末には、これまでの取り組みと成果を国に報告する。

報告した内容は、全国の自治体の取り組みのモデルとして国が研究・分析し、好事例は他の自治体に発信される。委託に際し、国からは研究費として年間

200万円程度が市に支払われる。事業期間は3年間だが、1年ごとの委託の更新が必要。岡谷小統合の取り組みの主体は今後も変わらないが、外部有識者の助言など、国の積極的な支援が受けられるようになる」としている。

うになるという。

市は、「これまでやってきた取り組みが、モデルとして他地域につながっていく。統合と、より良い学校づくりに携わる人にとって大きな張り合いになる」としている。

# 岡谷小の田中、神明小への統合

# 国モデル事業に

岡谷市教育委員会は、今年度末で閉校する岡谷小学校と田中、神明両小学校との統合を魅力ある学校づくりにつなげる取り組みが、国のモデル事業に選ばれたと4日の定例教委で報告した。委託研究事業として文部科学省から年間200万円程度を受ける。事業期間は3年。統合前後をめぐる取り組みを文科省が分析し、学校統廃合の課題を抱える全国の自治体、教育機関向けに情報発信する。

(野村知秀)

形にしていきたい」と話した。

少子化、人口減少社会に対応した学校教育の在り方を検討する国の今年度の新規事業で、統合を伴う魅力ある学校づくりを目指す事業での採択は全国で5例。県内では唯一。市教委は8月の市総合教育会議で、今後の教育、学術、文化振興の基本方針をまとめた「教育大綱」の素案を公表。素案に盛り込まれた「岡谷版コミュニティスクール」の導入、地域資源を活用した「岡谷スタンダードカリキュラム」の構築などを国採択事業

で取り組むテーマとした。「岡谷版コミュニティスクール」は、放課後子ども居場所作り事業や通学路の見守り隊などに参加、協力している地域住民と一緒に地域ぐるみの教育を展開する。「岡谷スタンダードカリキュラム」は製糸、シルク、産業などを生かした岡谷ならではの授業の実践を意味するという。

岩本博行教育長は「統合して良かったと思える学校づくりの取り組みが、全国のモデルの一つになる。しっかりと